



日本組織培養学会

会員通信

第127号

平成24年1月31日

発行者

* 坂野 俊宏 (株式会社マンダム)
伊藤 丈洋 (株式会社細胞科学研究所)

* 責任者連絡先

〒540-8530
大阪市中央区十二軒町5-12
株式会社マンダム 中央研究所
研究管理室
TEL : 06-6767-5024

目次

年頭にあたって	会長	2
日本組織培養学会第85回大会 ご案内	第85回大会大会長	2
第85回大会 奨励賞申請と発表について	教育担当幹事	5
Young Investigator Award, Application and Presentation		6
会長・幹事投票選挙のご案内	選挙管理委員	7
幹事報告 TCRC(組織培養研究)バックナンバーのJ-STAGE オンライン無料掲載決定	会長補佐幹事	8
※「著者の皆様への重要告知」部分は必ずお読みになられますようお願いいたします		
委員会報告 細胞培養士認定コース概要について	教育研究システム委員会	10

年頭にあたって

会員の皆様、明けましておめでとうございます。

昨年は東日本大震災があり、皆様の中にも被災された方、被災関係者の方がいらっしゃるかと思います。それらの方々には衷心よりお見舞いを申し上げます。1日も早い復興・復旧を願っております。

さて、今年は5月に京都大学(大会長:浅香勲会員)で学術大会が開催されます。会員の皆様には奮ってご参加、ご発表いただき、併せて会員相互の交流に役立てていただければと思います。

また、6月には4年に1度開催されているアメリカ The Society for In Vitro Biology (SIVB)学会の国際大会がワシントン州シアトル郊外の Bellevue で開催されることになっております。当学会はこの国際会議で、片岡会員(岡山大)、古江・楠田会員(医薬基盤研)にお世話いただき、シンポジウムを開催します。会員の皆様にもこの国際学会にご参加いただき、国際交流の輪を広げていただく機会にされてはいかがでしょうか。ぜひ SIVB のホームページをご覧ください。

また、本会員通信の間中幹事(獨協医大)からの報告にあるとおり、当学会の機関誌である Tissue Culture Research Communications 「組織培養研究」の創刊準備号(1981年)から第27巻(2008年)までがネット上で閲覧可能になる予定です。当時の論文を拝見してみると、先輩方の培養細胞研究への情熱や研究センスの良さが伝わってきます。若い方々もぜひ学会の財産であるアーカイブに接し、研究活動にお役立ていただければ幸いです。

会員の皆様のこの1年のご発展をお祈りし、新年の挨拶とさせていただきます。

会長 鈴木崇彦

日本組織培養学会第85回大会 ご案内

ご挨拶

日本組織培養学会第85回大会を、本年5月大文字山の麓、京都大学百周年時計台記念館で開催させていただくことになりました。本学会ホームページに掲載されている高岡先生がまとめられた大会年表によれば、京都での本学会大会は50回までは数年に1度の割合で開催されていたようですが、ここ十数年間は殆ど無く、久しぶりの開催となるようです。

いみじくも本年は、ヒトiPS細胞の樹立がCellに掲載されてから5年目にあたります。その間、幹細胞技術は全世界を巻き込んだ開発競争の元に発展を遂げ、具体的な医療応用がようやく視野に入ってきたところでは。言うまでも無く、iPS細胞やES細胞と言った幹細胞を医療応用する上での基盤技術は細胞培養技術です。そこで、本大会のテーマを「先端医療を担う培養技術」とさせていただきます。諸先生方の協力をいただきながら大会企画を検討し、特別講演では山中伸弥 iPS 細胞研究所長から「iPS 細胞研究の進展」のご講演をいただき、他、中村幸夫先生、糸昭苑先生、絵野沢伸先生にシンポジウムオーガナイザーをお願いし、「実現化目前の幹細胞治療と培養技術」と「細胞接着と細胞機能制御の最先端」と言う二つのシンポジウムを開催させていただきます。シンポジストは何れも最先端の先生方で、本大会に参加される先生方の今後のご研究においても、少なからず影響を与えられる内容と確信いたして

おります。是非活発なご討論をいただき、本大会が組織培養技術と本学会にとって、さらなる発展を遂げるきっかけとなることを願っております。

今回の大会日程は木金曜日の開催とさせていただきました。日程的には葵祭の直後で目立った行事はありませんが、気候的にはベストな時期です。大会中は大いにディスカッションいただき、大会後は京都の名跡と食を堪能され、英気を養われますようお勧めいたします。

いろいろ至らぬ点が多々あるかと存じますが、是非本大会に多数の皆様がご参加くださるよう、心よりお願い申し上げます。

第 85 回大会大会長

浅香 勲

大会概要

大会名: 日本組織培養学会 第 85 回大会

大会テーマ: 「先端医療を担う培養技術」

会期: 2012 年 5 月 17 日(木)・18 日(金)

会場: 京都大学百周年時計台記念館(京都市左京区吉田本町)

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/clocktower/>

予定プログラム

特別講演: 山中 伸弥(京都大学 iPS 細胞研究所長)

「iPS 細胞研究の進展」

シンポジウム1: オーガナイザー中村 幸夫(理化学研究所)

「実現化目前の幹細胞治療と培養技術」

高橋 政代(理化学研究所発生・再生科学総合研究センター)

「iPS 細胞由来網膜細胞の臨床応用に向けて」

阿久津 英憲(国立成医療研究センター研究所 生殖医療研究部)

「ゼノフリーヒト ES/iPS 細胞の培養システムの確立」

畠 賢一郎(株式会社 ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング)

「自家細胞を用いた再生医療製品の品質管理」

高橋 和利(京都大学 iPS 細胞研究所)

「iPS 細胞の安全性評価に関する取り組み」

栗田 良, 中村 幸夫(理化学研究所バイオリソースセンター)

「赤血球の人工生産」

シンポジウム2: オーガナイザー絵野沢 伸(国立成育医療研究センター), 桑 昭苑(熊本大学)

「細胞接着と細胞機能制御の最先端」

関口 清俊(大阪大学蛋白質研究所)

「細胞外マトリックスの多様性とテラーメイド培養基材」

上杉 志成(京都大学 物質-細胞統合システム拠点)

「細胞治療を助ける小分子化合物」

桑 昭苑(熊本大学発生医学研究所)

「多能性幹細胞の分化をサポートする細胞外環境」

絵野沢 伸(国立成育医療研究センター臨床研究センター)

「形態制御が与える機能面の変化」

一般口演

奨励賞演題(口演・ポスター)

一般演題・奨励賞演題募集

募集期間:2012年2月14日(火)から3月8日(木)まで、ただし抄録本文のみ3月15日(木)まで修正可能です。大会ホームページよりご応募願います。

また奨励賞対象演題に応募される場合は、所定の申請書類を2012年2月29日(水)までに提出(郵送)して下さい。詳しくはホームページでご確認ください。

学会ホームページ <http://jtca.umin.jp/>

または <http://jtca.umin.jp/meet/y2012/index.html>

参加費:

	会員種別	大会参加費	懇親会参加費
事前登録の場合	一般会員	6,000円	4,000円
	学生会員	3,000円	3,000円
	非会員	7,000円	5,000円
	学生非会員	4,000円	4,000円
当日登録の場合	一般会員	7,000円	5,000円
	学生会員	4,000円	4,000円
	非会員	8,000円	6,000円
	学生非会員	5,000円	5,000円
	名誉会員	全額無料	

事前登録は4月30日までに、同封の振替用紙もしくは大会ホームページにご用意した雛形を模して、ゆうちょ銀行(00980-0-312909)へお振込ください。

会場案内や宿泊の斡旋などについては、大会ホームページに順次掲載いたしますのでそちらをご覧ください。

大会事務局

京都大学 iPS 細胞研究所 規制科学部門
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 53
TEL: 075-366-7059 FAX: 075-366-7078
担当: 浅香 勲(jtca85@cira.kyoto-u.ac.jp)

第 85 回大会 奨励賞申請と発表について

教育担当幹事 佐藤 元信

1. 申請資格

- ・2012 年 4 月 1 日現在で 35 歳未満であること。
- ・日本組織培養学会の会員であること。
- ・今大会にて発表する奨励賞応募演題の筆頭学術発表者であること。
- ・日本組織培養学会 奨励賞をすでに受賞した方は再度応募できません。

2. 発表形式

- ・今後ウェブサイトの大会ホームページにて詳細をご案内いたします。なお、前回大会においては、ポスター展示に加えまして、口演(10 分)を行っていただきました。

3. 受賞者の皆様へのお願い

- ・受賞者は(1)会員通信へ「受賞の感想」を寄稿する、(2)受賞題名による原著論文を 1 年以内に本学会機関誌(Tissue Culture Research Communication)に投稿する、など学会活動へのご協力をお願いしております。

4. 応募方法

- ・申請用紙をホームページよりダウンロードしてご記入ください。なお、申請書類(用紙)には、本学会評議員の推薦状が含まれます。申請書類を下記宛てに書留にて郵送し、演題登録許可を得てください。その後、大会ホームページから演題抄録の登録を行っていただきます。

5. 応募〆切

- ・2 月 29 日(水)
演題登録許可の取得前にオンライン抄録登録は行わないようお願いいたします。

6. 申請書類郵送先

〒590-0535 泉南市りんくう南浜 2-11
ヒューマンサイエンス研究資源バンク
日本組織培養学会 奨励賞担当 佐藤 元信
電話: 072-480-1670 e-mail: jtca-office@umin.ac.jp (総合窓口)

Young Investigator Award, Application and Presentation

1. Applicants must meet the following criteria

- be less than 35-year-old on April 1, 2012.
- be the member of "Japanese Tissue Culture Association".
- be the first author of presentation of title applied for young investigator award.
- did not receive "Young Investigator Award of Japanese Tissue Culture Association" previously.

2. Presentation

The style of presentation will be announced in the "The 85th Annual Meeting Website" and in the next issue of "Tissue Culture Research Communications". For reference, the style of presentation in the 84th Annual Meeting (2011) was the oral presentation (10 min) in addition to the poster.

3. Ask for cooperation with "Japanese Tissue Culture Association".

The prize winner will be requested (1) to submit the comments of impression for getting the Young Investigator Award to News Letter of Japan Tissue Culture Association soon after the Annual Meeting, and (2) to submit the paper to "Tissue Culture Research Communications" by the consistent title applied to Young Investigator Award within 1 year after the Annual Meeting.

4. How to apply the forms.

You can download the application form from this website. Please fill the form and apply to the below address by registered mail. Please keep in mind that this form includes the testimonial written by councilor of Japanese Tissue Culture Association. After the acceptance and approval of application, you will be requested to submit the abstract through online registration in the Annual Meeting website.

5. Deadline of application.

February 29, 2012

Please do NOT submit to online registration BEFORE the approval of application by YIA office.

6. Address.

The application form should be addressed to:

Motonobu Satoh, Officer for YIA
The Japanese Tissue Culture Association
Japan Health Sciences Foundation
Health Science Research Resources Bank
2-11 Rinku-mihamihama, Osaka 590-0535
Tel: 072-480-1670
e-mail: jtca-office@umin.ac.jp (The official mail address of JTCA)

会長・幹事投票選挙のご案内

選挙管理委員 小原 有弘

2013年4月から4年間の任期になる新会長および新幹事の投票選挙をこの3月に行います。会則細則改正に伴い学生会員が加わりましたのでご注意ください。

下記選挙要項をご覧ください。投票締め切りは3月24日(土曜日)(消印有効)、選挙管理委員には坂野俊宏会員、小原有弘会員の2名が会長により指名されています。投票結果は総会(第85回大会)にて報告されます。

選挙要項

・投票選挙の公示

本学会会則及び細則に則り、2013年4月から4年間を任期とする執行役員(新会長1名および新幹事8名)の投票選挙を行います。(公示日2012年3月1日)

・選挙権(選ぶ権利)を有する人

正会員および学生会員

・被選挙権(選ばれる権利)を有する人

正会員

ただし、現会長および歴代会長の再選は禁止されています。また、現幹事は今回の選挙では幹事となることが出来ません。

名誉会員、学生会員、賛助会員、外国会員には会長および幹事の被選挙権がありません。

会員名簿(2012年2月発行)に、会長歴任者には**印、現幹事には*印、学生会員には△印を付しました。会員名簿[会員]から会長には**印と△印以外の方、幹事には*印と△印以外の方をお選びください。

・投票方法(投票用紙のご返送)

投票用紙、投票用紙入れ、返信用封筒(切手貼済み)、各1枚を同封します。投票用紙に会長1名、幹事8名を記入し、投票用紙入れに入れて厳封します(この封筒には差出人氏名などは書かないでください)。返信用封筒に入れ、ご自分の住所・氏名を記入欄に記入して郵便ポストへご投函ください。

・開封作業

選挙管理委員2名は選挙の公正化、無記名化を図るため以下の作業を行います。返信用封筒の住所氏名が正会員・学生会員であることを確認し、これを開封します。投票用紙入れを取り出し、未開封のまま他の投票用紙入れと一緒にして混ぜ合わせたのち開封し集計を行います。

・投票締め切りは3月24日(土曜日)(消印有効)です。

幹事報告

会長補佐幹事 間中 研一

TCRC(組織培養研究)バックナンバーの J-STAGE オンライン無料掲載決定

※「著者の皆様への重要告知」部分は必ずお読みになられますようお願いいたします。

無料掲載決定に至る経緯

2009 年以降の TCRC が紙ベース以外に J-STAGE オンライン掲載という世界に発信できる媒体として一歩前進したことは、岡本哲治編集長(元会長)のご貢献によるものである。

一方、それ以前の巻は倉庫に眠るまま長い間保管料を費やす状況にあり、処理すべき案件となっていた。解決策は現行と同様 J-STAGE に掲載することではあったが、そのための 240 万円前後の出費(レタープレス見積もり)は、折しも鈴木会長が自ら学会経済の立て直しに力を注いでいる中で、現状決断を躊躇させるものであった。

鈴木会長と共にバックナンバーに目を通す内、1) 本学会ならではの細胞培養技術情報集 2) グローバル(WEB)公開による情報化(特許申請時の照会検索などの二次利用) 3) 冊子倉庫保管料の削減(年間約 10 万円)、など多岐に亘るメリットが生じることを再確信し、幹事会審議事項とすることとした。

2011 年 4 月、独立行政法人科学技術振興機構(JST)の JST 電子アーカイブ事業(無料)の追加募集が懸かった。偶然とも言えるかもしれない好機到来であった。早速会長による、TCRC 岡本哲治編集長の署名を併せた、創刊準備号(1981 年)～第 27 巻(2008 年)アーカイブ化の申請が行われた。応募が多い場合は学会の規模から選外となる可能性も十分あった。

応募条件は、

- ①創刊年が古い、著作権(複製権と公衆送信権)を JST に許諾可能(または見込)であること
- ②J-STAGE により将来に渡って電子化公開される見込みのあること
- ③NII 等、他機関等で既にアーカイブ化がなされていないこと
- ④冊子の提供及び登載のための各種作業が可能な事
採択記事確認(目次チェック)や、プライバシー保護項目確定作業が発生します
- ⑤範囲は創刊号～H20 年度(2008)発行分までであること

を前提とし、重要性を判断し選定を行います。

と言う内容である。

同年 5 月の大会幹事会において、本件アーカイブ化実現に向け、経費削減のための編集ボランティアの導入など各案と、併せて JST への応募中である事を報告し審議に入った。結果、JST 不採択となっても当事業を推進する(全額を本年度特別会計予算へ組入れる)事に決した。

同年 7 月 29 日、鈴木会長のもとへ科学技術振興機構・中山氏より選定採択の報が届いた。すぐに不足分の冊子の提供の呼びかけを開始し、会長のラボにて創刊準備号(1981 年)～第 27 巻(2008 年)までの 77 巻、ページ総数 7238、論文総数 367 の全内容を収集し JST へ引き渡した。オンライン掲載は、今年度 4 月以降から J-STAGE の JTCA オンラインサイト:

<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jtca/-char/ja/>

において順次おこなわれる予定とのことである。

結果として計上予算を返上することができたことは誠に喜ばしい。このことが学会運営の方向を位置づける「弾み」となるよう祈りたい。なお、編集済み冊子は合本製本されて戻ることから、これを歴代会長が受継いで頂くというのはどうだろう。

今後について

TCRC の出版費用が会員収入に見合わず会計を圧迫していることへの認識から、現環境を JST 電子出版へさらにシフトする事が肝要かと思う。一般会計からの紙印刷支出をなくすこと、たとえば、①2009 年以降の全号(抄録号を含む)の電子アーカイブ(一般会計)、②抄録号のみ紙印刷(特別会計支出=大会収益費用を補填)、④JST オンライン投稿・出版システムの利用(一般会計)、によって差し引き年間 70 万円以上の経費削減(公告・別刷代など関連収入の減少勘定を含む)が見積もられる。これは一般会計年間赤字額に相当する。紙媒体による会員サービスをどこまで行うのか、試算は身の丈の経営をすべきであることを物語っていると思われる。

著者の皆様への重要告知

本件に伴う著作権について、第 10 巻(1991 年)以前の論文等は、その「複製権」と「公衆送信権」(WEB 掲示)を、以降の第 27 巻までについては「公衆送信権」を JST に許諾する必要があるため、該当著者から許可しない旨の申し立てがあれば、該当ページの非公開を通知しなくてはなりません。上記許諾に同意されない著者の方は至急お知らせくださいますようお願い致します。なお、元会員の方においては、退会者情報の利用制限の事情から個々への通知が困難であるため、本学会ホームページ上での公告する以外は免責とさせていただきます。掲載不許可の申出期限は本年 2 月末までとし、以降の場合はオンライン掲載後の掲載中止となりますことをご承諾ください。

謝辞

冊子をご提供あるいはお貸しいただきました。

高岡 聡子 元会員(宇都宮東病院)

筒井 健機 会員(日本歯科大学)

青儀 巧 会員(大塚製薬株式会社)

資料作成にご協力いただきました。

結城 貴 様 (東京大学)

委員会報告

教育研究システム委員会

古江一楠田 美保

細胞培養士認定コース概要について

細胞培養基盤技術コースを開始して3年が経過しました。コースI,IIともに、会員の皆様、法人会員の多大なるご協力のもと、回数を重ねてきております。深く感謝いたします。このたび、ようやく細胞培養士認定コース全体像が確定いたしましたので、ご報告いたします。培養士認定を厳正に行うために、下記の役割を担う細胞培養士認定委員会の設置を提案されております。

1. 細胞培養士認定試験の開催、
2. コースIIIでのレポートの評価、
3. 問題の作成、
4. 細胞培養士認定試験実施、
5. 採点、
6. 細胞培養士の認定。

また、これに伴いまして教育研究システム委員会のコースにおける役割を次に決めました。

1. 実習書の作製、改変の検討、認定。
2. 開催地の承認、
3. 培養指導士の承認、
4. 細胞培養基盤技術コースの協賛企業の発掘。

コースIIIの開催については、ホームページにてお知らせを掲載する予定です。

【細胞培養士認定コース概要】

【目的】

深刻なクロスコンタミネーションやマイコプラズマ感染などが報告されている一方、再生医療や薬剤毒性評価に培養細胞の利用が注目されている。安全、高品質で汎用性のある培養細胞を使用し、科学的に安定した結果が産生されるために、培養技術を標準化していくことを目的とする。その一環として、培養実習を行い、細胞培養士を育成する。

【コースについて】

講習はコースI～IIIを基本コースとする。

全コース終了した後、日本組織培養学会が認定した会員に細胞培養士の認定書を発行する。

細胞培養基盤技術コースコースI	開催中
細胞培養基盤技術コースコースII	開催中
細胞培養基盤技術コースコースIII	2011年度 第1回開催予定

【予備実習】

コースⅠを行うにあたり、事前に基本的な実験器具の操作に慣れる。

〔受講資格〕

日本組織培養学会会員（ただし、入会と同時に受講できる。培養経験がない会員を対象）

〔学習目標〕

基本的な実験機器・器具について理解する。

〔到達目標〕

1. ピペットを操作できる
2. マイクロピペットを操作できる。

【細胞培養基盤技術コースⅠ】

細胞培養の基本を理解し、細胞株を適切な方法で培養できる。

〔受講資格〕

日本組織培養学会会員（ただし、入会と同時に受講できる。）

〔学習目標〕

1. 無菌操作を知る。
2. 細胞を観察する。
3. 細胞を解凍する。
4. 細胞を凍結する。
5. 培地交換を行う。
6. 継代する。
7. 細胞数をカウントする。
8. クリーンベンチ、インキュベーターの仕組みを学ぶ。

〔到達目標〕

1. 無菌操作を無理なくできる。
2. 細胞が増殖していることを認識できる。
3. 凍結細胞を解凍できる。
4. 細胞を凍結する方法を理解する。
5. 細胞を傷つけないように培地交換ができる。
6. 細胞分散の状態を把握して、継代ができる。
7. 継代時の細胞数をカウントできる。
8. クリーンベンチ、インキュベーターが正しく使える。

〔実習内容〕

座学：培養研究の歴史、培養操作の実際

実習：細胞観察、培地交換、細胞解凍、細胞分散、ヘモサイトメーターでの細胞計測、細胞凍結

〔評価〕

実習終了直後、講師間での意見交換を行い、評価、総評する。

【細胞培養基盤技術コースⅡ】

培養細胞の品質管理法を理解し、細胞を用いたアッセイが行える。

〔受講資格〕

細胞培養基盤技術コースⅠ修了後の培養経験が半年以上ある日本組織培養学会会員

〔学習目標〕

1. マイコプラズマ感染の確認方法を理解する。
2. クロスコンタミネーションの発生原因を理解する。
3. 扱う細胞の機能評価を行う。
4. 細胞を用いた毒性評価を行う。
5. 染色体観察の方法を知る。

〔到達目標〕

1. マイコプラズマ感染の確認方法を理解し、感染の対処方法を理解できる。
2. クロスコンタミの確認の方法を理解し、クロスコンタミが発生しないような実験操作を行うことができる。
3. 細胞がその機能を保つような培養を行うことができ、その評価が必要であることを理解できる。
4. 薬剤が細胞数に与える影響を計測し、評価できる。
5. ヒト培養細胞の染色体の意味を知る。

〔実習内容〕

マルチウェルプレートに細胞播種。細胞数の計測と毒性評価。マイコプラズマ感染の観察。
レポート提出（レポートはフォーマットあり）

〔評価〕

実習終了直後、講師間での意見交換を行い、評価、総評する。
レポートの評価（コメントをつける）

〔フィードバック〕

レポートの返却。
総評を通達する。

【細胞培養基盤技術コースⅢ】

培養細胞を扱う上での基本的知識を持ち、かつ研究倫理を理解し、自立して培養細胞株を扱うことができる。

〔受講資格〕

細胞培養基盤技術コースⅡを修了した日本組織培養学会会員
レポート提出により申し込みとする。

〔学習目標〕

1. 細胞株に関する情報の検索方法を知る。
2. 細胞の増殖特性を理解する。
3. バイオハザード予防について理解する。

〔到達目標〕

利用したい細胞株を検索し、データシートが理解できる。
細胞の増殖曲線を作成することができる。
バイオハザード予防についての資料を検索できる。

〔講義内容〕

1. 細胞株と遺伝子情報の検索方法とデータシートの読み方
(Pubmed、NCBI データベースの読み方など)
2. 株化細胞の増殖曲線の作成方法
3. 研究の進め方と細胞を扱うときの倫理問題。
4. バイオハザードと法律
(遺伝子組換え実験の物理的封じ込めと病原体取り扱いレベルの BSL)

【評価試験】

筆記試験

採点。

試験問題作成は、細胞培養士認定委員会にて行う。

認定の最終決定は、細胞培養士認定委員会により行う。

【レポートの内容】

培養した経験のある細胞の種類、入手先、参考文献

上記のうち一例として、培養の位相差顕微鏡写真（弱拡大、強拡大）

細胞の入手年月日および入手機関、使用培地、継代方法、凍結保存方法

マイコプラズマ検査日 STR 検査の有無(検査をしていなければ、その旨を記載する)

参考文献

Growth カーブ=エクセルのデータ、倍加時間を算出

【細胞培養指導士認定資格】

細胞培養指導士（コース I）認定資格

「細胞培養士」として認定を受けた会員または教育研究システム委員会が指名した会員のうち、総会にて開催する細胞培養指導者講習会 2 年に 1 回参加し、細胞培養基盤技術コース I において指導者とともに実習指導を 3 回以上経験し、本実習の意義を理解して細胞培養士育成に貢献したいと希望する培養学会会員。

細胞培養指導士（コース II）認定資格

「細胞培養士」として認定を受けた会員または教育研究システム委員会が指名した会員のうち、総会にて開催する細胞培養指導者講習会に 2 年に 1 度以上参加し、細胞培養基盤技術コース II において指導者とともに実習指導を 3 回以上経験し、本実習の意義を理解して細胞培養士育成に貢献したいと希望する培養学会会員。

【開催地の認定】

コース開催に必要な備品が整備されており、細胞培養指導士 2 名以上が参加して、開催することとする。申請書を教育研究システム委員会に提出、検討、幹事会へ推薦、幹事会認定を行う。2 回目以降

の開催は、開催する旨を事前に教育研究システム委員会に提出、承認。

現在までの認定開催地は下記となります。

コースⅠ開催認定地

- ・広島大学 歯学部（二川浩樹 会員）
- ・獨協大学医科大学（間中研一 会員）
- ・京都大学 iPS 細胞研究所（浅香勲 会員）
- ・独）医薬基盤研究所（古江-楠田美保 会員）
- ・大阪ハイテクノロジー専門学校（大日本住友製薬グループ DS ファーマ
バイオメディカル株式会社 上田忠佳 会員）

コースⅡ開催認定地

- ・独）医薬基盤研究所（古江-楠田美保 会員）

協賛企業:コース開催に多大なるご協力をいただいております。深く感謝いたします。

大日本住友製薬グループ DS ファーマバイオメディカル株式会社

日本ベクトン・ティッキンソン株式会社

株式会社ニコン インストルメンツカンパニー

株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング

株式会社マンダム